

# 調査を基に町に要望

各常任委員会では、平成20年に行った所管事務調査の結果を基にそれぞれ町政への要望事項をまとめ12月11日、町長へ提出しました。主なものを抜粋して紹介します。

## ■総務常任委員会

- ①平成17年度策定の行政改革大綱に沿い、改革事項が計画どおり実施されるよう、なお一層努力すること。
- ②歳入の確保、歳出削減に努力していることは評価できる。今後とも、地方交付税の交付額などの動向に注視し、健全な財政運営に努めること。
- ③町税などの収納率向上に対する努力が成果として表れ、大いに評価できる。今後とも収納率向上に一層努めること。
- ④住宅用火災警報器が設置された場合は、設置されない場合の火災に比べ死者数が大幅に減少している。町内の設置普及率はまだ低いので、今後とも普及率向上に努めること。

## ■教育民生常任委員会

- ①第4期山田町介護保険事業計画の策定に当たっては、施設入所待機者に対応すべく、グループホームや小規模多機能型居宅介護施設など充実したものにし、保険料は最小限に抑えるよう努めること。
- ②地域医療を守るために県立山田病院医師の負担を減らすことが求められている。医療機関の役割に応じた適切な受診について、意識の啓発に努めること。
- ③地球温暖化対策のため、企業や住民がどのように取り組むかを具体的に環境基本計画の中に盛り込むよう検討すること。
- ④山田高校を存続させるためには、中学校はもとよりその保護者に魅力を理解してもらうことが必要である。生徒たちの頑張りや町民に伝わるような事業の実施に努めること。

## ■産業建設常任委員会

- ①柳沢北浜地区土地区画整理事業の北浜地区45号への取り付け道路を早期に実施するよう努めること。
- ②町道の維持補修費を増額し、危険個所の早期補修と、計画的な維持補修に努めること。
- ③畜産農家、堆肥センターや大沢漁協の廃棄物堆肥処理施設の経営を安定させるための対策を講じられるよう、努力すること。
- ④通年型観光への取り組みを実施するとともに、山田の特産品を販売する施設の整備に努めること。  
また、ゴールデンウィーク中のイベントを検討すること。

## 産業建設

# 畜産振興の現状と課題などを調査

産業建設常任委員会は、「畜産振興」と「農林業振興」「企業誘致対策」をテーマに調査しました。

「畜産振興と堆肥センターの現状と課題」について  
羽後町は、西部が放牧に適した高原地帯であることから、肉用牛・酪農・養豚

など幅広く畜産業が営まれています。特に黒毛和牛は、平成3年に羽後牛としてブランド化するなど、畜産業が盛んな町であり、本町と類似している町です。堆肥センターは、指定管理者制度を適用し、運営費は堆肥販売（42%）の他に

本町と比較すると羽後町は、水産業がないことから多少状況が異なりますが、畜産農家の経営安定化策や補助制度の充実、肉用牛のブランド化、堆肥センター設備の老朽化への対処の方法など、参考とすべき点が多くありました。

羽後町の堆肥センターで生産されている「羽後ユーク」



同程度でありながら、病院や福祉施設を運営するなど、福祉の充実した町であると感じました。

また、医療機関と施設、さらに地域住民が連携を  
図っている点は、福祉の理想であり、わが町の今後の方向性を見出すことのできた研修でした。

指定管理委託料だけでは運営できないことから、町の補助金などでまかなっているとのことでした。

町長は「羽後町でも畜産は厳しい面もあるが、現状で残っているのは意欲がある方と考え、肥育頭数を増やす方向で経営を考え、支援していきたい」とのこと

「農林業の振興と活性化に向けた取り組み」について  
東部に雄物川の扇状地が広がり、稲作に適した地形で「あきたこまち」の作付けが盛んである。19年度の予算で農林水産業費に8・8%を配分するなど、第一次産業に対する事業が多いと感じました。本町も、積極的に予算配分し、裏付けのある産業振興を進めるべきだと感じました。

取り組みとしては、積雪対策として中小企業に1社5万円の補助金交付などを行っていました。  
可能性は少なくても、積極的に企業誘致の働きかけをしている点は、見習うべきであると感じました。